

『二本松城跡整備基本計画 ～第2次～』 概要版

令和8年3月 二本松市教育委員会

1. 目的

第2次整備計画は、保存活用計画で示した二本松城跡の保存・活用・整備の方向性・方針に基づき、第1次整備計画策定後の整備の現状を正しく把握し、課題を抽出した上で、実施する整備事業の基本理念と基本方針を定め、具体的な整備内容やスケジュール等を示すことを目的とする。

2. 基本理念

史跡二本松城跡の本質的価値を構成する要素を正しく理解し、将来にわたり保存・継承するとともに、二本松城跡を楽しく活用できる整備を進める。

第2次整備計画で進める整備により、中世と近世の遺構が共存するという、二本松城跡の本質的価値への理解が深まり、本質的価値を構成する要素を確実に保存・継承することができる。

また、「大名の美意識と防衛の知恵を巡る」という、ストーリー性のある動線を設定し、それに伴う城内の整備と、二本松歴史館で行う展示や講座等とを関連付けることで、二本松城跡を楽しく活用することができる。

なお、整備にあたっては、県立自然公園、都市公園の機能と調和を図りながら進める。

3. 主な基本方針

(1) 整備の基本方針

- ①二本松城跡の本質的価値である、中世と近世が共存する整備を目指す。
- ②整備は原則、幕末期の姿を目指す。

(2) 保存のための基本方針

- ①本質的価値を構成する要素を守るための整備を行う。
- ②本質的価値を構成する要素を守るため、調査・研究を継続する。

(3) 活用のための基本方針

- ①学校教育や生涯学習の教育資源として活用する。
- ②二本松市のまちづくりや観光資源として活用する。

(4) 維持管理の基本方針

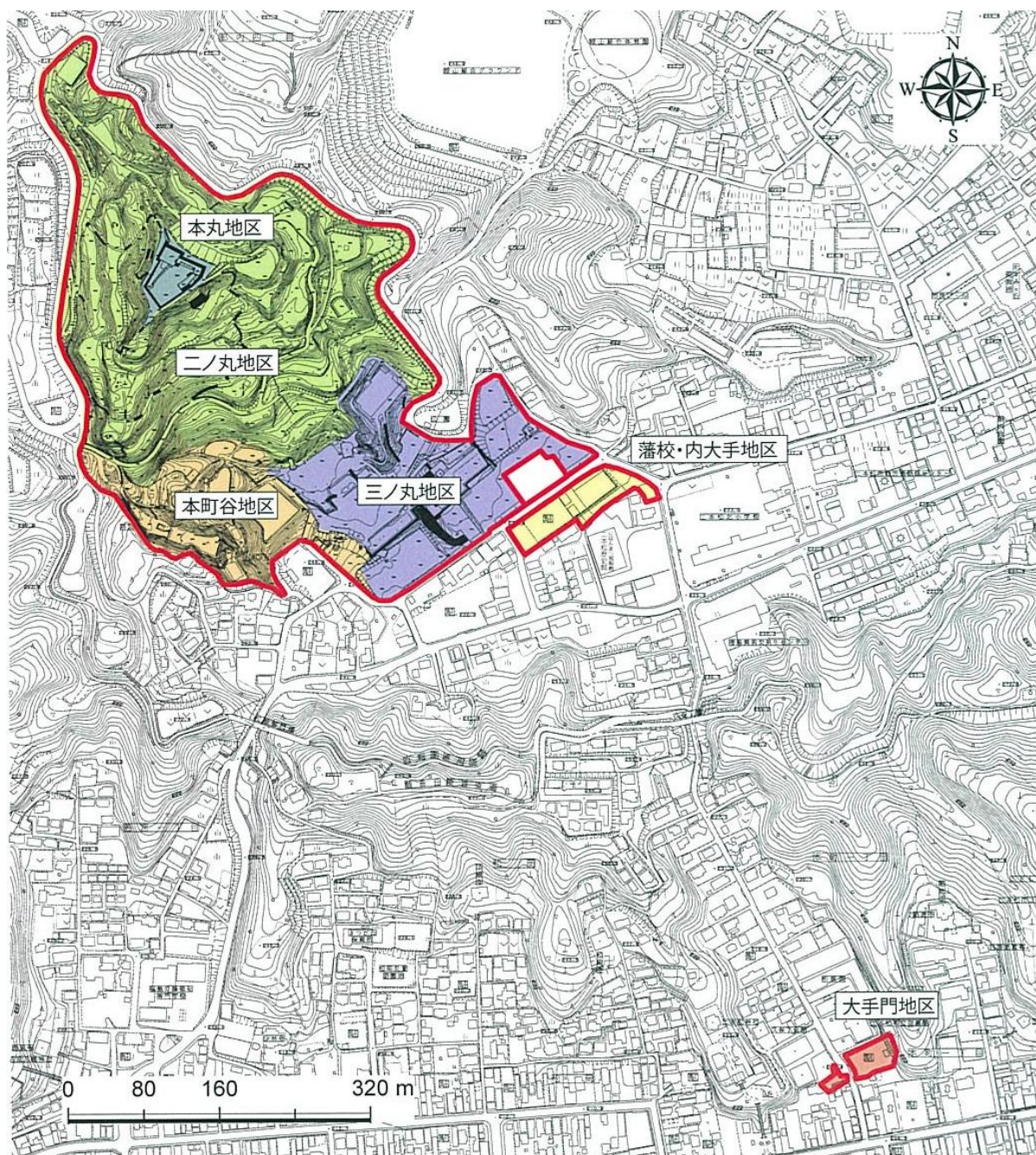
- ①本質的価値を構成する要素や来城者を災害や人為的被害から守るため、防災・防犯を考慮した維持管理に努める。
- ②来城者が二本松城跡を楽しく、安心して活用できるよう、樹木や公園施設等の維持管理に努める。

4. 整備の期間

令和8年（2026）から令和17年（2035）までの10年間とする。

5. 地区区分

地区区分は、『史跡二本松城跡保存活用計画』で区分した、「本丸地区」「二ノ丸地区」「三ノ丸地区」「本町谷地区」「大手門地区」に加え、令和6年10月11日に追加指定された「藩校・内大手地区」の6地区とする。



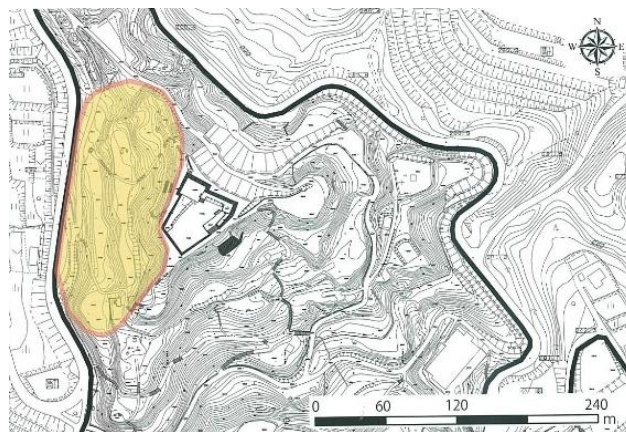
史跡二本松城跡地区区分図

5. 整備を計画する理由と地区

二本松城跡は、「中世城館から近世城郭へと継続して利用されていた状況がよく残され、我が国の中世および近世の政治体制を理解する上で重要な城跡」であることから史跡に指定され、その本質的価値を構成する要素は、二本松城が営まれた白旗ヶ峯全域に遺存している。

しかし、二本松城跡を訪れる来城者は、再現された箕輪門から三ノ丸跡へと向かい、本町谷地区にある池や滝、洗心亭周辺を見学して本丸跡へ登るケースが多く、搦手門跡周辺やそこから北へ延びる腰巻石垣等が残る二ノ丸地区西エリアを訪れる来城者は少ない。

以上のことから第2次整備計画では、二ノ丸地区西エリアを中心に整備を行い、これまで周知が不十分であった当該地区に遺存する二本松城跡の本質的価値の理解を深めていくこととする。

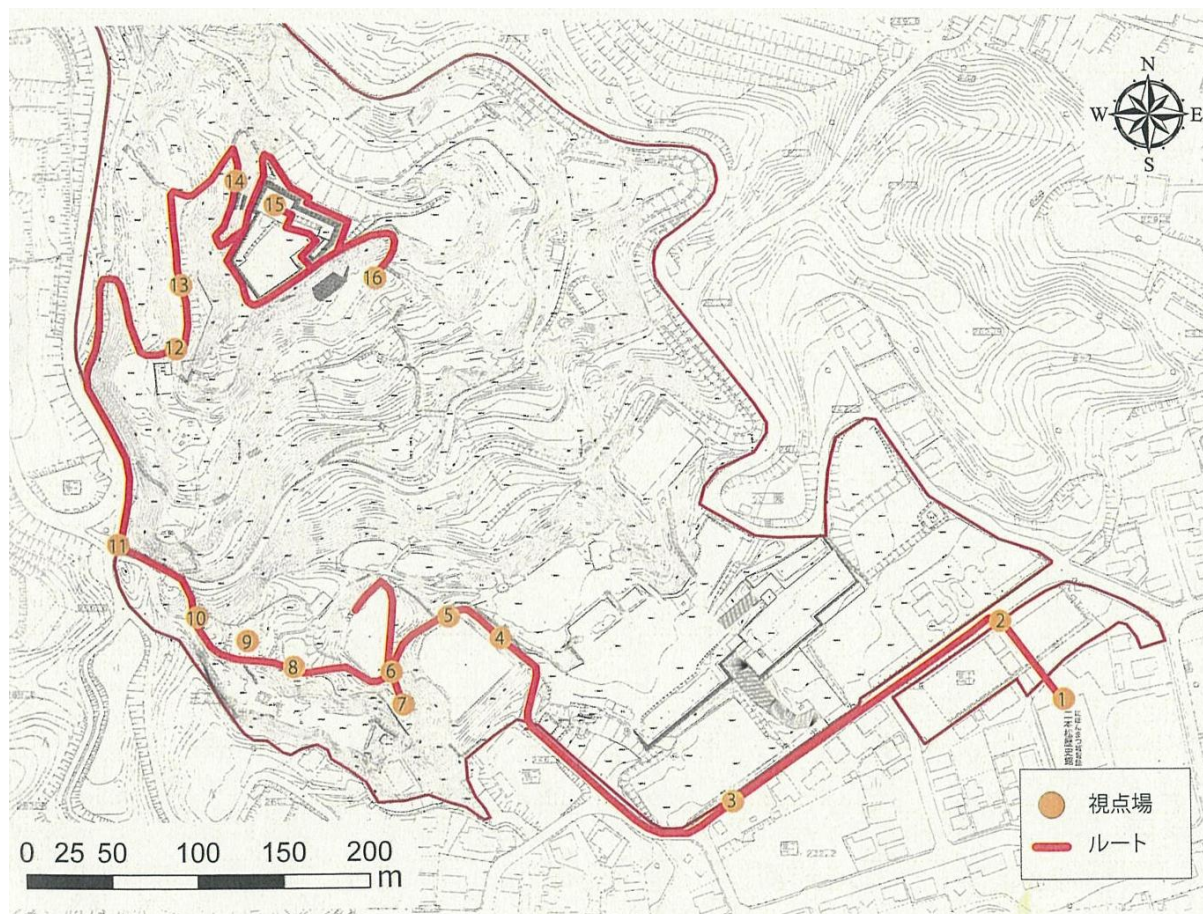


二ノ丸地区西エリアの範囲

6. 主な整備の概要

「大名の美意識と防衛の知恵を巡る」動線の設定

二本松歴史館で二本松城の歴史を学び、三ノ丸跡の高石垣の美しさを見ながら、本町谷に意図的に作られた庭園を回遊し、様々な時期に造られた石垣が残る二ノ丸地区西エリアから防衛の本拠地である本丸跡へと向かう動線の設定と16箇所の視点場を設けるとともに、搦手門台東石垣から北へ延びる腰巻石垣の全長表示、サイン整備、支障木の整理等を行う。



「大名の美意識と防衛の知恵を巡る」動線と視点場

「大名の美意識と防衛の知恵を巡る」動線の視点場一覧

No.	視点場	本質的価値の構成要素等
	整備後の見所	
①	目的地を望む”城報館テラス”	○箕輪門と城壁
	○にほんまつ城報館 1 階の二本松歴史館で二本松城の歴史を学び、2 階のテラスに出ると、昭和57年（1982）に再現された箕輪門と城壁、そしてこのルートの最終目的である本丸跡の石垣を望むことができる。	
②	江戸期の幅員を再現した”箕輪門前登城路”	○江戸期の幅員を再現した登城路 ○石垣の水路を流れる二合田用水
	○テラスから延びる橋を渡った先が、藩校“敬学館”があった平場である。敬学館跡の前の道は、藩士が登城するための道であり、江戸期の道幅を一部再現している。登城路沿いには石垣で造られた水路があり、そこを流れるのが二合田用水である。	
③	計算して積み上げられた”高石垣”	○箕輪門 ○左右の石垣
	○二合田用水の水音を聞きながら先に進むと、二本松城跡への入口がある。ここで右に振り向くと、箕輪門の右側に高さ約8mの石垣が見える。さらに進むと、計算された高さ約11mの高石垣の全貌が見えてくる。この石垣を見ながら右に曲がり坂を上り始める。	
④	縦に組まれた石組が巨石を守る”霞ヶ滝”	○霞ヶ滝 ○霞池越しの洗心亭
	○坂道を進むと左側に藤棚が見えてくる。藤棚への階段を上がると、霞池が広がる。対岸の右手には、縦に並べられた石組が後ろの巨石を守るかのように組まれている。目を上へ向けると、江戸期の建物である茶亭“洗心亭”が望める。	
⑤	野趣あふれる庭園の始まり”七ツ滝”	○七ツ滝（庭園のスタート地点）
	○藤棚を左に見ながら左へ曲がると、右側から水音が聞こえてくる。ここが野趣あふれる庭園の始まりとなる石垣で造られた七ツ滝である。石垣で造られた段は、二合田用水の流れを緩やかにする工夫である。	
⑥	四季を映す”るり池”	○るり池と布袋滝
	○七ツ滝の水音を聞きながら城内通路を登ると左手に洗心亭への登り口が、右手には“るり池”と緩やかに水が流れ落ちる布袋滝が見える。春には桜、初夏にはカキツバタ、秋にはモミジそして満月、冬には水墨画の世界が水面（みなも）に映し出される。	
⑦	藩主の美意識を追体験できる”洗心亭”	○洗心亭 ○るり池 ○霞池 ○三ノ丸跡
	○洗心亭への階段を登ると、眼下に霞池とその先に三ノ丸跡が望め、左に目を移すと、るり池に映し出された四季それぞれの彩りを見ることができる。洗心亭の上座敷に腰を降ろすと、藩主の美意識を追体験できる。	
⑧	もみじ谷と”傘まつ”	○傘マツ ○イロハモミジ
	○洗心亭を降り、道に沿って坂道を左へ進むと、右手に市指定天然記念物の“霞ヶ城の傘マツ”が、左手に“二本松城跡のイロハカエデ”が見えてくる。秋には、緑色の傘まつ周辺が真っ赤に染まる“もみじ谷”となる。	
⑨	石をたたく水音が聞こえる”二合田用水”	○傘マツ ○洗心滝 ○二合田用水
	○傘マツの一段上の平場には東屋があり、下には傘マツが見え、上の方からは石をたたく水音が聞こえ、わずかに滝の姿も見える。防護柵越しには、滝を流れ落ちた二合田用水の流れが見える。	
⑩	瀑布”洗心滝”	○洗心滝
	○水音に誘われて急にきつくなる登り坂を進むと、谷の最も奥に位置し、最も迫力のある滝が大きな音と共に現れる。洗心滝である。	
⑪	庭園の最終地”西谷”	○二合田用水取水口（庭園の終点） ○安達太良山 ○西谷棚田
	○洗心滝を見ながら最後の坂を登り切り、狭い切通しを進むと突然視界が開ける。眼前には安達太良連峰が、眼下には西谷の棚田を望むことができる眺望のポイントである。ここが、野趣あふれる庭園の最終地となる。	
⑫	隠れた防衛拠点”搦手門”	○東西の搦手門台石垣 ○門柱礎石跡 ○北へ延びる帯曲輪
	○安達太良山や西谷の棚田を左に見ながら二合田用水に沿って北へ進むと、二合田用水を渡る橋が現れる。この橋を渡り坂道を上ると、加藤明利が寛永期に構築した高さ6mを越す搦手門台西石垣が見えてくる。門台東石垣は崩れているが、東西の門台石垣の間には、搦手門の礎石が当時のまま残されている。	
⑬	中世の切岸を改修した”腰巻石垣”	○北へ延びる腰巻石垣 ○本丸跡の石垣 ○中世城館期の切岸
	○搦手門台東石垣の北東隅からは、北へ延びる1～4段に積まれた腰巻石垣を見ることができる。この石垣は、土砂の崩落を防止するため、加藤氏が中世城館期に整備された切岸を整形して構築したものである。本来は、4段ほどの築石が続いていたが、崩落土により石垣は覆われている。腰巻石垣の最終点には、縦に据えられた留石が露出している。留石は本丸跡の石垣の位置を意識して設置されたと思われ、ここから見上げたその先には、本丸跡石垣の出隅のラインが目に入る。	
⑭	本丸の西を守る”二段石垣”	○二段石垣 ○本丸跡の石垣
	○腰巻石垣の留石を後に帯曲輪をさらに北に進むと、本丸へと向かう登り口に着く。ここから上を見上げると、蒲生期に構築された二本松城跡で最も古い石垣のひとつである“二段石垣”とその先に本丸跡の石垣を望むことができる。二段石垣は、天守台の縄張りを意識して構築されたことが分かる。	
⑮	二本松の歴史が見渡せる”本丸跡天守台”	○本丸跡の石垣 ○本丸跡 ○天守台跡 ○360°の眺望
	○二段石垣から本丸跡の石垣が築かれた平場まで登りきると、高さ約7mの石垣が目前に現れる。石垣沿いに半周し、石の階段を上った平場が本丸跡であり、その先には標高345mの天守台跡がある。天守台からは、東には室町期に畠山氏と対峙した大内氏の小浜城跡を、南には幕末の戊辰戦争で激しい戦闘が繰り広げられた大塚口古戦場を、その先には二本松藩領であった郡山駅周辺の高層ビルまでも見渡すことができる。	
⑯	本丸の南東を守る日本最大級の”大石垣”	○大石垣 ○本丸跡の石垣 ○虎口石垣
	○本丸跡から三ノ丸跡方面への大手道の階段を下ると、斜面の両脇に張り付く石垣を見ることができる。虎口に伴う石垣である。急な階段をさらに下ると右手に平場が現れ、その先には、蒲生期に構築された高さ11mを越す日本最大級の“大石垣”が現れる。この石垣は、“二段石垣”と対をなして築かれた石垣である。	

①搦手門台東石垣から北へ延びる腰巻石垣の整備

搦手門台東石垣から北へ約 60m 延びる腰巻石垣の連続性と最終地に縦に据えられた石（留石）の状況を表現する。また、石垣は、中世期に畠山氏が整備した切岸（急斜面）を改修して構築されたことや発掘調査の状況等が伝わるようサインを整備する。



搦手門台東石垣から北へ延びる腰巻石垣の位置図



露出している腰巻石垣（左）と終点に設置された留石（右）

②二ノ丸地区西エリアの支障木の整理

整備する腰巻石垣、本丸跡の石垣、搦手門台東石垣を見ることができるよう支障木を整理する。



西谷から望む本丸跡の石垣と搦手門跡の石垣

		事業計画													
各章各節 項 目	整 備 内 容	第2次整備計画										第3次 R18～R27 2036～	第4次～ R28～ 2046～	担当課	
		前 期					後 期								
		R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17				
		2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035				
6章2節 動 線	動線計画に伴うサインの設置													文化課	
	動線を記したパンフレットの作成とHP、QRガイドへのアップ														
6章3節 道構表現	搦手門から北へ延びる腰巻石垣の露出表示とサインの設置													文化課	
6章4節 石垣の計画	乙森南直下石垣の落石防止への対策													都計課	
6章5節 危険木の計画	危険木等の伐採・剪定													都計課	
6章6節 支障木	景観支障木の整理													都計課	
6章7節 サイン	サインの整理（撤去・更新・QR設置・統一）													文化課	
6章8節 公園施設・ 管理施設	公園施設（テーブル・ベンチ・水飲み場）の撤去・修理													都計課	
	園路の一部廃止														
	二合田用水取り入れ口・セツ滝周辺の景観整備														
	近現代に建設された建物や駐車場の移転・撤去														
6章9節 調 査	本町谷地区の調査													文化課	
	中世城館期の縄張り調査														
	中世城館期の遺構（土塁や空堀、堀切等）調査														
	大手道と付属施設の発掘調査														
	史料・絵図・古写真等の新資料の発見と調査														
第8章 管理・運営	石垣カルテの整備と石垣管理計画の作成													文化課	
	植生管理計画の作成														
	本町谷地区の樹木整理による滝・池・二合田用水等の顕在化													都計課	
	防災・防火管理													都計課 文化課	
その他	第1次保存活用計画見直し 第3次整備基本計画の策定													文化課	
	地域計画の作成														